

高校生 I C T 2016 Conference

in 大分

「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】

～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」

開催報告書

2016年10月2日(日) 10:00-16:00

【会場】アイネス、大分県消費生活・男女共同参画プラザ

主催

大分県、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所、
安心ネットづくり促進協議会、大阪私学教育情報化研究会、
一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構、
一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁



2016年11月1日

目 次

1. 開催概要	1
2. 高校生 ICT Conference 2016 地域開催	3
3. 高校生 ICT Conference 2016 in 大分 開催概要	4
4. 主担当	8
5. 高校生 ICT Conference 2016 サミット	9
6. 高校生 ICT Conference 最終報告会	9
7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応	9

1. 開催概要

名 称：	<p>高校生 ICT Conference 2016</p> <p>テーマ：「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】 ～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」</p>
主催：	<ul style="list-style-type: none"> ・安心ネットづくり促進協議会 ・大阪私学教育情報化研究会 ・一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構 ・一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 ・長野県教育委員会（長野のみ） ・福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会（福岡のみ） ・大分県（大分のみ） ・公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所（大分のみ） ・特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム（神奈川のみ） ・仙台城南高等学校（宮城のみ）
共催：	<p>内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁、 十勝毎日新聞社（帯広のみ）、みやぎのICT教育研究専門部会（宮城のみ）、新潟県サイバー脅威対策協議会（新潟のみ）、いしかわ青少年安心ネット環境推進連絡会（石川のみ）、学校法人中村学園専門学校静岡電子情報カレッジ（静岡のみ）、帝塚山大学（奈良のみ）、大分県教育委員会、大分県高等学校PTA連合会（大分のみ）</p>
後援：	<p>一般社団法人全国高等学校PTA連合会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所、全国高等学校情報教育研究会、北海道、北海道教育委員会、北海道高等学校PTA連合会、北海道私立中学高等学校協会、北海道青少年有害情報対策実行委員会、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、宮城県高等学校PTA連合会、新潟県教育委員会、新潟県高等学校長協会、新潟県高等学校PTA連合会、石川県、石川県教育委員会、石川県高等学校長協会、石川県高等学校PTA連合会、北陸携帯電話販売店協会、静岡県、静岡県教育委員会、静岡県公立高等学校PTA連合会、東京都教育委員会、東京都高等学校情報教育研究会、神奈川県教育委員会、大阪府高等学校情報教育研究会、奈良県、奈良県情報教育研究会、奈良県教育委員会、青少年を有害環境から守る奈良コンソーシアム、高知県教育委員会、高知新聞、福岡県公立高等学校長協会、福岡県私学協会、福岡県公立高等学校PTA連合会</p>
協賛：	<p>グーグル株式会社、株式会社サイバーエージェント、株式会社ディー・エヌ・エー、株式会社ラック、グリー株式会社、LINE株式会社、エースチャイルド株式会社、株式会社メディア開発綜研、Twitter Japan株式会社、一般社団法人情報教育研究所</p>
協力： (順不同)	<p>アルプスシステムインテグレーション株式会社、株式会社内田洋行、株式会社NTTドコモ、KDDI株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、特定非営利活動法人浜松子どもとメディアリテラシー研究所、株式会社朝日出版社、ストップイットジャパン株式会社</p>
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年</p>

	<p>度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加し、2013 年度は、東京・大阪に加え、北海道、奈良、大分を新たに加えて 5 拠点にて開催し、計 51 校 267 人の高校生が参加しました。2014 度も同 5 拠点にて開催し、計 44 校 221 人の高校生が参加しました。<u>2015 年度は、より全国的な規模での展開に向けて、新たに石川、長野、神奈川、福岡を加えた 9 拠点にて開催し、計 78 校 310 人の高校生が参加しました。</u></p> <p>さらに当事者たる高校生の意見を中央に届けるべく、各地域の代表者はサミットにより提言をまとめ、内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省で発表を行いました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>※平成 21 年 4 月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政府に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成 23 年度の小学校を皮切りに、平成 24 年は中学校、平成 25 年度は高等学校で全面实施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しい ICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全に ICT を利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。今年度は、スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取り組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3)アイスブレイク (4)熟議 (5)グループ発表 (6) 講評 (7)サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表（プレゼン） (2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地 募集人員等：	<p>募集参加生徒 30 名 募集見学者各回 30 名（各開催地により変動あり）</p>
参加参観方法：	<p>参加費・参観無料 [要事前登録]</p>
高校生 ICT Conference2016	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 米田 謙三（大阪私学教育情報化研究会 副会長）

実行委員会：	<p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 石田 幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会代表・消費者団体訴訟室長） 猪股 富美子（お茶の水女子大学 人間発達科学研究所） 植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事） 小城 英子（聖心女子大学） 齋藤 長行（青山学院大学 株式会社 KDDI 研究所） 他、関係者団体、事業者等 <p>【事務局】</p> <p>安心ネットづくり促進協議会 〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目 14 番 6 号 齋藤ビル 2 階 TEL：03-3562-8850 FAX：03-3562-1180</p>
--------	--

2. 高校生 ICT Conference 2016 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

	地域	開催日時	会場
地域開催	北海道（札幌）	2016年10月16日（日）11:00-17:00	札幌ユビキタス協創広場 U-cala
	北海道（帯広）	2016年10月15日（土）11:00-17:00	とちちプラザ
	宮城	2016年8月22日（月）10:00-17:00	東北工業大学 一番町ロビー
	石川	2016年9月19日（月）10:00-17:00	石川県女性センター
	長野	2016年10月1日（土）10:00-17:00	安曇野市明科公民館
	新潟	2016年8月20日（土）10:00-17:00	ガレソホール
	東京	2016年9月4日（日）10:30-17:00	東京ユビキタス協創広場 CANVAS
	神奈川	2016年9月11日（日）10:00-17:00	岩崎学園
	静岡	2016年9月25日（日）10:00-17:00	静岡電子情報カレッジ
	大阪	2016年8月28日（日）10:00-17:00	大阪ユビキタス協創広場 CANVAS
	奈良	2016年10月2日（日）10:00-17:00	帝塚山大学 東生駒キャンパス
	高知	2016年8月23日（火）9:30-16:30	ちより街テラス
	福岡	2016年8月18日（木）12:30-17:00	アクロス福岡
	大分	2016年10月2日（日）10:00-16:00	アイネス、大分県消費生活・男女共同参画プラザ
東京サミット	2016年11月3日（木）13:00-17:00	東京ユビキタス協創広場 CANVAS	
最終報告会	2016年12月中旬頃		

東京サミットへは各地域で独自で実施した情報モラル・リテラシー啓発サミットからのオブザーバー参加者を招待予定。（サミット熟議のみ参加）※2015年度実績：沖縄、福井

3. 高校生 ICT Conference 2016 in 大分 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 121 名の参加者を得て、「ネットトラブル! どうする? 【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】 司会進行・主旨説明 ハイパーネットワーク社会研究所 原田 美織 様 高校生 ICT Conference の概要及び本日の大まかな流れを簡単に説明していただきました。</p> <p>開会の挨拶 ハイパーネットワーク社会研究所 副所長 渡辺律子 様 以下のについてお話しいただきました。 ・この高校生 ICT カンファレンスでは、自分と考え方や価値観が違う人と混ざって議論をし、まとめ、新しいことを提案していくこと。 ・今後、変化の激しい情報社会を生き抜くためには、そうした力が求められるので、とてもよい機会であること。 ・また、今日のカンファレンスの取り組みの様子から、大分県の代表校を選び、代表者が東京で全国の代表者と集まって議論をし、最終的に 2 名が国の省庁に行って発表します。また、大分ならではの賞として、高校生が選ぶグループ賞を設けたこと。 ・この 1 日を有意義にするために、ぜひ個人が何か目標を持って取り組んでいただきたいこと。</p> <p>ご来賓挨拶 総務省 九州総合通信局 電気通信事業課長 氏家宏之 様 以下のについてお話しいただきました。 ・大分県では、保護者向けの情報モラル教育が盛んであること。 ・大分県内殆どの学校で「ネットトラブル・情報モラル出前授業」が開催されていて、一昨年は「ネットトラブルに対応するための指導や講習会ができる、人材育成の講座」も、生徒を含めたかたちで開催されたこと。 ・大分県は「ネットモラル教育の先進地」であると言えること。 ・総務省では「e-ネット安心講座」という講座を毎年九州管内だけで 150 校を超える小中学校、高校で開催しているが、現在は高校生 ICT カンファレンスのように、生徒自らが考えて実行するような取組が注目されていること。 ・九州各地でも「生徒自らが作るネット利用のルール」として行っている活動や、「高校生が中学校を訪れて、後輩にネットトラブルの体験談やルールの必要性を話す」というような活動も行われていること。</p>
----	---

・大分県は、2013年度からこの高校生 ICT カンファレンスに参加しており、とても意義があり、今年度も大きな成果が期待できると確信していること。

第一部 事業者による講演

ソフトバンク株式会社 渉外本部 約款・サービス部 佐治 健史 様

「フィルタリングについて考えよう！」というテーマで講演していただきました。

参加校 学校紹介 および グループ分け

参加学校ごとに、簡単に学校紹介と自己紹介をしていただきました。

自己紹介の後、8つのグループに分かれ、各グループ内で自己紹介などを実施しました。

第二部：熟議「ネットトラブル！どうする？【予防】と【対策】～トラブルに巻き込まれないために、巻き込まれたら～」

グループに分かれ、ファシリテーターは大学等の学生の方が担当し、高校生熟議を開始しました。メモや付箋紙を活用しながら模造紙に貼り付けて意見を整理分類しまとめて行きました。

また企業の方もサポーターとして入っていただきました。専門的な質問が出るとすばやく答えてくださいました。ファシリテーターは事前にフォームやまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。（詳細は別紙「グループ熟議録」をご参照ください）

第三部：グループ発表

各グループともプレゼンテーションソフトを活用して3分程度の発表を行いました。（詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください）

その後、引率の先生と各校の生徒代表が集まり、11月3日に開催される東京サミットに行く代表校の選定投票を行い、大分東明高校が代表校に選出され、発表されました。

全体講評 大分県私学振興青少年課 課長 徳野 満 様

以下コメントをいただきました。

「本カンファレンスは3つの点でこれからの時代を担う青少年にとって重要であると考えています。1つ目は県内各地から高校生が集まり一緒になって課題及び対策を考えるということ、2つ目はICTがテーマであるということ、そして3つ目は、カンファレンスつまり熟議という手法で行うということです。

皆さんの発表を拝見して、ポイントをしばったり、寸劇を使ったり工夫がなされていて大変素晴らしかったですと思います。寸劇では今日初めて出会ったと思えないほど息がピッタリと合っていました。

高校生の皆さんもこれから社会に出たら、人と人が出会って思いを共有して、考えをまとめる、それを自分の言葉で人に伝える、行動に移すことの大切さ、または難しさをこのカンファレンスで体験できたのではないのでしょうか。

	ぜひ、この取り組みを学校、PTA、子ども会など県内各地域にも広めていただくようお願いします。」
参加校：	大分県立宇佐産業科学高等学校 大分高等学校 大分豊府高等学校 大分県立中津東高等学校 別府溝部学園高等学校 大分国際情報高等学校 大分県立由布高等学校 大分県立大分商業高等学校 大分県立大分鶴崎高等学校 大分工業高等学校 大分東明高等学校（順不同）
日 時：	2016年10月2日（日） 10:00-16:00
場 所：	アイネス、大分県消費生活・男女共同参画プラザ
参加人数：	熟議参加生徒 47人 見学者・関係者 74人（教員・教育関係者・その他） 合計：121人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略） 【グループ1】6名 大分国際情報高等学校2年女子、大分東明高等学校3年女子、 大分高等学校2年女子、大分豊府高等学校1年男子、大分県立中津東高等学校1年女子 〔ファシリテーター〕 日本文理大学 長瀬 翔斗 〔書記〕 I V Y総合技術工学院 藤田 瑞樹 【グループ2】 6名 大分豊府高等学校2年女子、大分東明高等学校3年女子、別府溝部学園高等学校1年男子、大分高等学校2年女子、大分県立由布高等学校3年男子、大分県立中津東高等学校1年女子 〔ファシリテーター〕 I V Y総合技術工学院 森崎 良太 〔書記〕 I V Y総合技術工学院 河野 正宗 【グループ3】 6名 大分県立中津東高等学校2年女子、大分東明高等学校3年男子、

別府溝部学園高等学校 1年男子、大分県立由布高等学校 3年男子、
大分豊府高等学校 2年女子、大分県立宇佐産業科学高等学校 3年女子
〔ファシリテーター〕

大分大学大学院 首藤 麻衣
〔書記〕

I V Y総合技術工学院 上野 紘輝

【グループ4】 6名

大分工業高等学校 3年女子、大分東明高等学校 3年男子、大分県立由布高等学校 3
年男子、大分国際情報高等学校 1年女子、別府溝部学園高等学校 3年女子、
大分豊府高等学校 2年女子
〔ファシリテーター〕

日本文理大学 竹下 歌
〔書記〕

I V Y総合技術工学院 松尾 将吾

【グループ5】 6名

大分東明高等学校 3年男子、大分県立中津東高等学校 1年女子、
大分工業高等学校 2年男子、大分県立大分商業高等学校 1年女子、
大分高等学校 2年女子、大分国際情報高等学校 1年女子
〔ファシリテーター〕

I V Y総合技術工学院 若林 佑
〔書記〕

I V Y総合技術工学院 高倉 圭佑

【グループ6】 6名

大分県立大分商業高等学校 1年女子、大分県立中津東高等学校 2年女子、
大分東明高等学校 3年男子、大分国際情報高等学校 2年女子、
大分国際情報高等学校 1年女子、大分工業高等学校 2年男子
〔ファシリテーター〕

I V Y総合技術工学院 赤嶺 翔平
〔書記〕

I V Y総合技術工学院 河村 直哉

【グループ7】 6名

大分東明高等学校 3年男子、大分豊府高等学校 2年女子、
大分県立大分鶴崎高等学校 2年男子、大分県立由布高等学校 3年女子、
大分県立中津東高等学校 2年女子、別府溝部学園高等学校 1年女子
〔ファシリテーター〕

I V Y総合技術工学院 福井 翔太
〔書記〕

	I V Y総合技術工学院 松田 直樹 【グループ8】 5名 大分県立中津東高等学校1年女子、大分東明高等学校3年女子、 大分県立大分鶴崎高等学校2年男子、別府溝部学園高等学校1年女子、 大分豊府高等学校1年女子 [ファシリテーター] I V Y総合技術工学院 外山 鴻貴 [書記] I V Y総合技術工学院 釘宮 友一

4. 主担当

ハイパーネットワーク社会研究所	渡辺、原田、芳崎	全体調整、事務局、庶務、
安心ネットづくり促進協議会	源	事務局、庶務
ハイパーネットワーク社会研究所	原田	司会
大学等	学生	ファシリテーター
ハイパーネットワーク社会研究所		書記
各地力団体、事業者、大学等		講演、ノベルティ、資料提供 他

(敬称略)

5. 高校生 ICT Conference 2016 サミット

高校生 ICT Conference 2016 サミットは、各地で開催された Conference の成果を高校生の代表として提言をまとめるための場です。その代表者の選考は以下の手順によります。

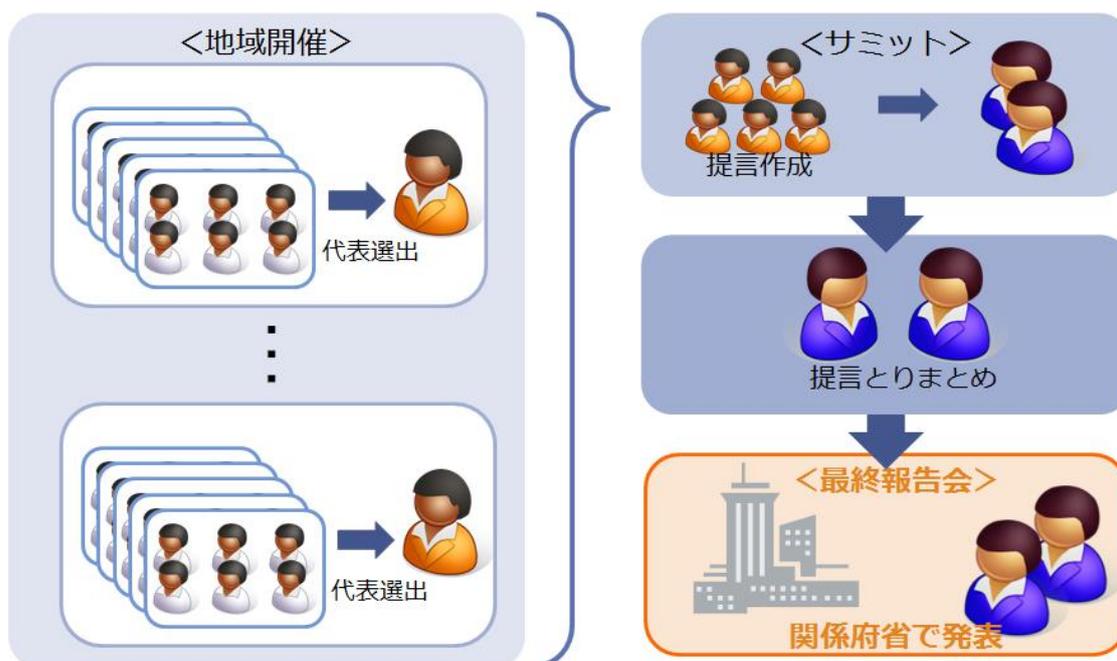
- 1) 参加が決まった場合、参加生徒を決めていただき、事前に登録をする
- 2) 熟議終了後、参加校代表生徒の投票を基に代表を選出
- 3) 各地の代表者でサミット開催
- 4) サミット終了後、最終報告会で発表する代表（2名）を上記手順と同様に選出
- 5) 最終報告会代表者が、サミットの内容を提言にまとめ、最終報告会で提言発表を行う

6. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2016 サミットで検討された提言を、選出された代表者が報告用にとりまとめを行い、関係府省にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを踏む。

【報告先予定府省】

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁



7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表資料保存（又は模造紙など発表紙面の撮影）
- 2) Conference 終了後、発表内容、講評と併せて高校生 ICT Conference のサイトにアップデート
- 3) 高校生 ICT Conference 2016 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2016 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 5) 最終報告会での発表

以上